

アルミ缶 リサイクル ニュース

April
4
2018

Vol. 143



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminium Can Recycling Association

東京都中央区銀座4-2-15 塚本素山ビル6階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒104-0061
<http://www.alumi-can.or.jp>

2017年(平成29年)一般回収協力者表彰

全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から、優秀な活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度の表彰は全国で64団体(受賞者の詳細は、前号Vol.142に掲載)で、1月から3月にかけて全国各地で表彰式が開催されました。関東地区の受賞者につきましては、2月16日、東京會館LEVEL XXIにて合同表彰式を開催しました。同時に本年度優秀回収拠点2社につきましても、表彰を実施しました。

アルミ缶一般回収協力者合同表彰式【関東地区】およびアルミ缶優秀回収拠点表彰

平成30年2月16日東京都千代田区大手町の東京會館 LEVEL XXIにて、関東地区の受賞者21団体をお招きして合同表彰式を開催しました。表彰に先立ち富永泰夫理事長より「アルミ缶の回収に対する理解や素晴らしい実績を作ってくれた皆さんのおかげで、90%を超えるリサイクル率が毎年続いています。1976年に表彰制度を開始して以来アルミ缶の需要量も増加し、回収に取り組む皆様の取扱量も増えていった経緯があります。日頃の皆様の取り組みには深く感謝を申し上げます。さらにリサイクルの輪をもっと大きくしていきたいと考えております。一方で集められたアルミ缶の一部が輸出されていることは残念です。国内で使用され回収したアルミ缶は、すべて国内で使われることが最も望ましいと考えております」と挨拶がありました。

来賓を代表して、経済産業省製造産業局金属課長 小見山康二様より「リサイクル率が2年連続で90%台を記録しているのは本日お集りの皆様の日頃の地道な努力の賜物である点は感謝を申し上げます。アルミニウムは加工性が高く、軽い、強度がある、錆びないといった優れた特性を

持ち、産業を支える基幹的な素材であります。普及が進む電気自動車では車体の軽量化が求められ、アルミの重要性がますます増えています。環境政策としての3Rが重要で日本が経済成長を持続的に続けていくには環境制約、資源制約の問題を乗り越える必要があります。アルミ地金は日本では100%輸入に頼っている中で、資源の安定供給の観点からアルミ缶のリサイクルは重要な課題であります。国民一人一人の意識や、地域による自主的な取り組みが重要であり、今後も継続して頂きたい」との挨拶がありました。

乾杯に先立ち田代泰副理事長より「アルミ缶をきちんと分別し回収することが、社会的に定着しています。この場にいる皆さんの支えにより今の状況があると認識しています。アルミ缶のリサイクルについて今後もさらに盛り上げて行きたいと思えます」と挨拶がありました。



挨拶をする富永理事長



挨拶をされる経済産業省製造産業局
小見山 康二金属課長



乾杯の音頭を取る田代副理事長

受賞者を代表して2団体様から受賞の喜びのお言葉を頂きました。

久保町第二自治会 自治会長
佐々木 正也様より

「自治会費は値上げをしないという方針の下、資源回収等で地域の活動費の足しにしようとしたアルミ缶の回収ですが、実際の回収は早朝や寒い時期・暑い時期もあり、大変な中で女性が中心となりきっちりと回収ができています点に感謝申し上げます。この度は晴れやかな席に呼んで頂きありがとうございます。」とお言葉を頂きました。



久保町第二自治会 佐々木会長

川崎市社会福祉事業団 柿生学園 園長
風間 邦忠様より

「30年前の開所当時より、アルミ缶の回収・作業を実施してきましたが、当時はこのようなりサイクルに貢献できるとは思ってもみませんでした。本来ならもっと多くの利用者の声を届けたいのですが代表して感謝の意を表したいと思います。本日ご列席の皆様のご今後のご健勝を祈念して挨拶とさせていただきます。」とお言葉を頂きました。



川崎市社会福祉事業団 柿生学園 風間園長



アルミ缶優秀回収拠点表彰

昭和58年に「優秀回収拠点表彰制度」を設け、当協会認定の回収拠点様の中から当協会の活動に特にご尽力、ご協力下さった拠点の方を表彰しています。本年度は小森産業株式会社(岐阜県美濃加茂市)、林金属工業株式会社(長野県諏訪市)の2社が選ばれました。各社から受賞のお言葉を頂きました。

小森産業株式会社
小森 康彦様(取締役 会長)より

「本日の結果は日々アルミ缶の回収に取り組んでいる学校様・団体様が弊社に持ち込んで下さる結果ですので、この場を借りて御礼申し上げます。我々はリサイクル推進に関し、学校様・団体様の活動維持の為、今後も最大限協力していきたいと考えています。会社内にエコステーションを設置し、12種類の資源回収を行っています。リサイクルできるものは全てリサイクルする。市民の皆様とリサイクル意識を共有し地域に根ざした会社を目指していきます。」とご挨拶頂きました。



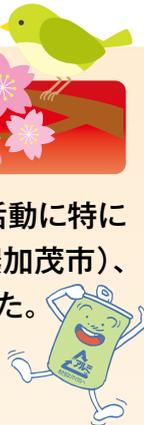
小森産業株式会社 取締役会長 小森 康彦様

林金属工業株式会社
林 斗志幸様(代表取締役 社長)より

「現在は諏訪地区20万人圏から約8割近くの小中学校・団体様よりアルミ缶の資源回収を実施しています。当社創業70周年の歴史の中で初めてこのような晴れやかな席にお招き頂き、ありがとうございます。地域がら精密機械工業が多い地区で、鉄・銅・アルミ等の資源物のリサイクルでやってきました。アルミ缶を含めて今後も資源のリサイクルに邁進していきたいと考えております。」とご挨拶頂きました。



林金属工業株式会社 代表取締役社長 林 斗志幸様





全国の表彰式

各地で表彰式が行われました。
受賞されました皆様の喜びの様子を一部ご紹介します。



神崎市老人クラブ連合会千代田支部
推薦拠点:サンコーアルミ(株)



第二小瀬戸むつみ会
推薦拠点:小江原産業



KOMNYすみれの家
推薦拠点:(株)藤原商店



沖館第三町会
推薦拠点:(株)伸和産業



幸畑阿部野町会
推薦拠点:(株)伸和産業



西近野町会
推薦拠点:(株)青森資源



横尾だんじり保存会
推薦拠点:(株)イワフチ



高城台自治会
推薦拠点:西部故紙センター(株)



糸島たんぽぽ
推薦拠点:(株)糸島産業



駿豆学園管理組合
推薦拠点:(株)藤原商店



上石田町自治会
推薦拠点:(株)岩田商店



海田なかよし実習所
推薦拠点:(株)本田春荘商店



大須めばえ会
推薦拠点:(株)本田春荘商店



河内小学校PTA子供会
推薦拠点:(株)きやま商会



松葉保育園まつぼっくりの会
推薦拠点:(株)リックスメタル



福浜会松ぼっくり
推薦拠点:(株)三光



草笛の会 菊川寮
推薦拠点:(株)ニューリサイクル



滋賀での合同表彰式(エルごとの家・西川組・大宝西幼稚園保護者会)
推薦拠点:(株)昭和アルミ缶リサイクリングセンター

2018年飲料用アルミ缶需要予測～218億缶(前年比99%)

当協会は、毎年2月に「日本の飲料用アルミ缶需要量」について発表していますが、今年も2月16日(金)に記者会見を行いました。2018年の飲料用アルミ缶の需要量は、前年219.3億缶からほぼ横ばいの218億缶になると発表しました。ビール類の落ち込みをその他アルコールがカバーすると予想します。



記者会見：富永理事長(中央)、田代副理事長(右)、末永企画委員長(左)

2017年見込

- アルミ缶出荷量はビール系が減少(98%)するものの、ビール系以外のアルコールは増加(110%)アルコール合計では前年比100%
- 非アルコールは96%。ボトル缶は横這い。SOTコーヒーと飲料缶が減少と予測。
- 輸出入を加味した総需要量は219.3億缶(前年比98%)と推定

2018年予測

- アルミ缶出荷量予測はビール系が引き続き減少(98%)。ビール系以外のアルコールは増加(107%)アルコール合計では前年比100%
- 非アルコールは99%。ボトル缶は増加(103%)するがその他は減少と予想。
- 輸出入を加味した総需要量はほぼ横這いの218億缶(前年比99%)と予想。



● 日本の飲料用アルミニウム缶需要量(1～12月)

単位：億缶

暦年	2016年実績		2017年見込み		2018年予測			
		前年比 %		前年比 %		前年比 %		
出向先別 A 国内産缶	ビール(発泡酒・新分野含む)		98.0	98	95.7	98	93.8	98
	ビール以外の飲料	その他アルコール	32.2	112	35.4	110	37.8	107
		非アルコール	86.2	101	82.5	96	81.6	99
	計		118.4	104	117.8	99	119.4	101
	小計 (内ボトル缶数量)		216.4	101	213.6	99	213.2	100
空缶輸入量 B		0.5	100	0.5	100	0.5	100	
実缶輸入量 C		7.5	94	6.8	91	6.0	88	
実缶輸出量 D(空缶輸出含む)		0.6	100	1.6	268	1.7	106	
国内需要量(A+B+C-D) 合計		223.8	101	219.3	98	218.0	99	

協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締め、回収してください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



編集後記

- 新年度に入り、なにかとそわそわする時期でもあります。特にこの時期は多くの人にとって節目の時期にあたるのではないのでしょうか。今までと環境が大きく変わった方もおられると思います。
- 新しい目標を立てるのもこの時期かもしれません。今年度は心機一転新しいことにチャレンジしてみたいものです。そう来年のこの時期に後悔しないように...

アルミ缶リサイクルニュース第143号

発行日 平成30年4月20日
 発行人 森口 夏樹
 編集人 小林 裕
 発行所 アルミ缶リサイクル協会